

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	Vulnerable 大腸がんに対する化学療法の実態調査
	研究目的	切除不能大腸がんに対する標準的な一次治療は、オキサリプラチンまたはイリノテカンにフッ化ピリミジンを加えた doublet 療法に分子標的薬を加えた併用化学療法が標準となっています。しかし高齢者や並存疾患や病状によって状態があまりよくない患者さん（vulnerable な患者さん）に対しては通常の標準治療から薬剤投与量を減量、もしくはオキサリプラチンまたはイリノテカンを除いたフッ化ピリミジンと分子標的薬の 2 剤、または分子標的薬である抗 EGFR 抗体単剤での治療が行われています。しかしながら、このような vulnerable な切除不能大腸がん患者さんの実態についてはあまり報告されておらず、その予後、治療成績は明らかになっていません。このため本研究は多施設共同で vulnerable な大腸がん患者さんの化学療法および予後のデータを後ろ向きに収集し、その実態を調査することを目的としています。
	研究対象者	2015 年 6 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに 1 次治療として当院で vulnerable な患者さんを対象とする化学療法（フッ化ピリミジン±分子標的薬、減量 Doublet±分子標的薬、セツキシマブ or パニツムマブ単剤）を受けた患者さんが対象となります。
	研究期間	西暦 2022 年 3 月 22 日～西暦 2023 年 9 月 30 日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器内科・消化管 町田望
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等 共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	消化器内科・消化管 近畿大学病院 川上尚人 石川県立中央病院 木藤陽介 九州大学病院 馬場英司 聖マリアンナ医科大学 伊澤直樹 神奈川県立がんセンター 古田光寛 四国がんセンター 日野佳織 名古屋医療センター 加藤恭子 関西医科大学附属病院 朴将源 筑波大学附属病院 山本祥之 恵佑会札幌病院 川上賢太郎 神戸市立医療センター中央市民病院 松本俊彦 九州がんセンター 花村文康 国立がん研究センター中央病院 庄司広和 大分大学医学部附属病院 小森梓 岸和田市民病院 野長瀬祥兼